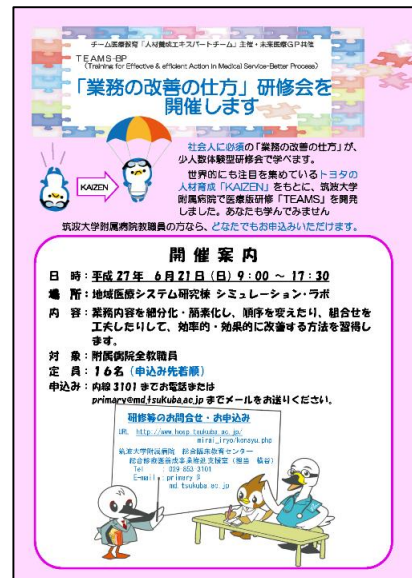


◆ タイトル ◆

TEAMS-BP 業務の改善の仕方

◆ 内容の概要 ◆

産業訓練として広く普及した Training Within Industry を医療現場に応用したものが Training for Effective&efficient Action in Medical Service (TEAMS) である。人を育成するためのスキルの基本となるもので、今回の TEAMS-BP は業務改善方法についての講義と、ツールである作業分解シートを利用した体験ワークによる研修からなっている。



◆ 総合診療医にいかに関与するか ◆

総合診療の達成のためには、チーム診療が必須である。関わる人が増え、安全性を重視すると、業務は煩雑で複雑化しやすい。また、医療の特質として、複数業務を並行して行うことも多い。特に違う職種では、互いの業務を解っているようで解っていないこともある。業務を見直し改善すれば、時間短縮や安全性を高くする工夫から、最終的に患者への利益につながる。また、一人の患者に関わる業種が多く、時に行政やボランティアなど非医療関係者とも共同作業を要することがある。業務を明文化することで、より理解しやすく、感情が入り込みにくいこの方法は、人間関係円滑化のうえでも大切である。

◆ 内容の詳細 ◆

1、全体スケジュール

午前中に、TEAMS-BP の基本のレクチャーを受け、作業分解シート使用法の基本を学ぶ。

午後に、3-4人グループに分かれ、ファシリテーターと共にワークを行う。改善業務例は、各人の日常業務を持ち寄り、一人60分前後で、作業シートを実際に作成しながら行う。



| 時間 | 内容 |
|------------|--------------------------|
| 2015年6月21日 | |
| 9:00-12:00 | 導入講義 トレーナーによる改善の仕方の例示 |

12 : 00-13 : 00

昼食休憩

13 : 00-17 : 30

小グループに分かれての実習

2、内容

TEAMS の目的は、①作業の効率化を図る方法②合理的な考え方を体得する方法を学習し、患者に質の高い安全な医療を提供するとともに、職員がやりがいをもって働ける環境を作り上げる事である。三つある TEAMS のうち、今回は業務改善の仕方を学んだ。業務改善作業分解シートというツールを用いる。第一段階は作業の分解、第二段階は細目の自問を行う、第三段階は新方法に展開する、第四段階が新方法を実施する、の段階に分かれている。理論を学んだ後に、看護師の業務改善実例に基づき、具体的に解説してもらった。



午後は、各自が持ち寄った例に基づき、業務改善の作業分解シートを使用するワークを行った。「ねらい」「細目内容」では言語化が、「着想」では実現可能性でなく可能な資源をすべて挙げるなどをファシリテーターから教わった。明文化により、意見が出やすくこと、問題点が明瞭化すること、「業務改善のねらい」は明瞭にしたほうが議論を深められることも体験した。

◆ 参加者の声 ◆

始めは煩雑な日常業務を、いかに作業分解シートに落としたりよいか分からなかったが、午後の研修で使い方がわかった。さっそく日常業務に応用していきたい。問題点が、一つでなく複数あることに気が付くことが出来た。これを一つ一つはっきりさせていけば、よりよい業務改善につなげられると思う。(Mさん)

普段「愚痴」にしてきたことを例に取り上げた。作業を分解することで、問題点が明確化し、客観的に全体を見渡すことができた。まだ業務が改善されていないのに、感情面でもすっきりした。互いの業務を理解し合えば、現実には難しいと思い込んでいた業務分担でも建設的意見が出しやすくなると思った。(Noさん)



◆ 講師からのコメント ◆

業務改善シートを作成することで、複数の問題点が浮かび上がることがある。

それはまた別のシートを作ればよい。

悪者捜しにならずに、客観的に業務改善を提案できる。

日々使うことで磨かれるのが技術です。どんどん利用してください。

(グループファシリテーター)

